小説

二人乗り（第二回）

連

それから毎日、武は登下校のとき私を自転車の後ろに乗せて通学した。そして一週間が経ち足の捻挫は治り無事歩けるようになった。

「美咲〜、早く行くぞ！」

それなのに武は私を迎えに来る。

「私、もう一人で大丈夫って言ったよね？」

「良いから早く乗れ。遅刻するぞ？」

腕につけている時計を見ると刻々と登校時間が近づいている。私はしょうがなくいつもの様に自転車の後ろに乗る。

「だってもう捻挫だって治ったし…元々私の捻挫が治るまでの約束だったから…」

「そんな約束、口実に決まってんだろ！」

「ぇ？」

彼は私の腕を引っ張り、半ば強引に自転車の後ろに乗せて走り出した。いつもの風景、いつもの暖かい背中、いつもの声。それだけなのに心が満たされる。自転車が走り始めると二人だけの空間ができたように思えた。

「好き」

彼の口から出てきた単語に私の胸は高鳴った。

「ボールをぶつけたのは偶然だった。でも捻挫したって聞いた時、チャンスだと思ったんだ。もう一度、美咲に近づくチャンスだって。…俺は昔から美咲が好きなんだ。」

「うん…。」

私は彼の体に腕をまわし、背中に顔をうずめた。彼が今ここにいる、それを確かめるかのように強く彼に抱きついていた。

（終）

亜佐美（第六回）

こうして、私の新しくて、ちょっとおかしな生活がスタートした。

「はい、では次の行から茂木さん、読んでください。」

き、きた。

心臓がバクバク鳴り出す。

この学校に来てから、皆と同じように、色々な事をやらされるようになった。音読もその一つだ。みんなにとっては何てことないのかもしれないけれど、私は死ぬんじゃないかと思うほど、恥ずかしい。しかも音読をする時、必ず立って読まないといけないのだ。私はよれよれと席を立つ。ふと、私を見ていたらしい亜佐美ちゃんと目が合った。亜佐美ちゃんは、どこかをしきりに指差している。その方向に目を向けると、今度は美華ちゃんが一段と険しい顔で

ま・け・ん・な！

と口を動かしていた。

ああ、そうか、美華ちゃんは悔しいんだ・・・・・。

それは一週間と少し前、今日の様に音読をさせられた時だった。

「何だよ、ちっちゃくて聞こえないよ！」

いきなり背後から大きな声でそう叫ばれ、音読は一時中断された。声の主は、クラスの中でもとくに変わった男の子、勇気君だ。

「瀬戸君！」

先生が怒りながら勇気君の席に歩いていく。皆、あーあ、という表情で勇気君と先生を交互に見る。

「だって何て言ってるかわかんないじゃん」

勇気君はちょっとやそっとじゃ引き下がらない性格なので、すかさず反論する。

「だからって読んでいる所に横はいりするのはよくありません！皆にも迷惑がかかります！」

先生はぴしゃりと言うと、勇気君を私の所に連れてきた。

「さ、茂木さんに謝りなさい」

私はどうすれば良いのかわからないまま、もじもじした。別に謝ってくれなくて良いのに。

そう思った瞬間、勇気君が口にした一言が、先生を…、何より美華ちゃんを怒らせたのだった。

「じゃあ、今度読む時はもっとでっかくしゃべれよ」

元々、勇気君と美華ちゃんはウマが合わない。でも、本当はお互いの事が大好きな事は二人を見ていればわかる。だからこそ美華ちゃんは勇気君が許せないんじゃないのかな。と亜佐美ちゃんはその日の帰り道で言っていた。

私は深呼吸をした。

放課後、ほぼ毎日、発表が得意なサエコちゃんを中心に皆が教えてくれた事を思い出す。教科書は、目の高さに。顔を上げて。聞く人の事を考えて、ペースはゆっくり。声は黒板を突き抜けるのをイメージしてね。大丈夫。絶対出来るよ！

そして、大きく息を吸った。

「茂木！」

帰ろうと教室を出ると、勇気君がやってきた。

思わず下を向く。

「何だよ」

すぐさま美華ちゃんが言葉を返した。亜佐美ちゃんも、じっと勇気君を見る。

また、何か言われるのかな？不安が頭をよぎる。

しかし、勇気君の口から飛び出したのは、意外な一言だった。

「今日の、良かったじゃん」

勇気君はニコっと笑い、じゃあな、と言って走って行った。

私は放心状態になった。

後ろでみんなが私を歓迎してくれている声がかすかに聞こえてきたが、頭の中は真っ白になっていた。

それも当然かもしれない。

はじめて褒められたのだから。

「・・・・・」

私の心に何かが、じわじわとこみ上げてきた。

（続）

パソコン独占日記（第二回）

この前の夏の新聞から四ヶ月…いや五ヶ月…？…どちらかわかりませんがお久ぶりです。みなさんいかがお過ごしでしょうか。クリスマスも終わって冬休み突入です(これ書いている日にちは一二月二六日です)。冬休みといえば大晦日や一月に入るとお正月、初詣、お年玉、年賀状、お餅といろいろとありますが、もう一つ思いつくのが受験です。他のネタがどうしても思いつかないのと、いつも長い間パソコンを独占しているので今日は早く終わらせなければいけないのでこのネタでおつきあい下さい。

私は今、高三の受験生で受験は中三以来。毎日毎日毎日勉強地獄です(高一、高二と部活づけで勉強さぼってました)。この新聞を読んでいる人達は小・中学生が多いと思いますが、中には「今受験です」という人もいるでしょうか。

睡眠時間削って眠くはないですか？私はとても眠くて寝てしまいます。眠気には勝てません。力つきて寝てしまった翌朝起きるとすごい後悔して「今日こそは！！」と思うのですがやっぱりまた寝てしまいます(汗)あとしょっちゅう集中力が切れて投げ出したくなります。

そんな時のおススメはベランダに出てボケーと空を見る(夜限定)。この季節は寒いですが星がとってもきれいです。オリオン座がとってもきれいだったので高校受験の時はよくもうやりたくない！って時は空をよく見ていました(今は寒くて外にでるのがめんどうなのでやっていません笑)。オリオン座を見た事ない人…夜、暇な時見てみましょう。オリオン座を知らない人…自分で理科の教科書ひっぱりだして星座盤で探してください。

そして私のもうひとつのおススメはラジオを聴くことです。ラジオは一日中やっています。聴きながら勉強しても、何もやりたくなくなった時に聴いてもいいと思います。私は聴きながらじゃないと何故か集中できません。かといって音楽を聴きながらやると逆に集中できません。なんだか変です。

長々とここまで書きましたがお腹がすいたのとまだ仕事があるのでここで終わることにします。受験生のみなさん。今は辛いですが私も頑張ります。みなさんも倒れない程度にがんばりましょう。

はっぴーにゅーいやー

（終）

読書コーナー

いつも楽しく利用させてもらっています。おススメ作家さんを紹介させていただきます。森絵都、鷺沢萌、石田衣良です。この三人に私は中学三年から高校二年生ぐらいに出会いました。森さんは学校の朝読書の冊子で…、鷺沢さんは教科書で…、そして石田さんは友人からのすすめでした。これほど読みやすく、心引かれる作家はいないと思います。ケータイ小説やアニメノベルズも良いですが、本当の文学にふれるのも良いかと思います。

私は、これら三人の本を一度学生のうちに読んでおいて良かったと思います。『LOVE LETTER』は、石田さんのみの本ではありませんが、一番好きな話です。

ペンネーム　コマのお母さん（十九歳）の方が投稿してくださいました。ありがとうございました。

心理ゲームの診断結果

あなたのモーレツ度は…

スポーツやダンスと答えた人…モーレツ度90％

カラダ中がエネルギーではちきれそう。コレと決めたらほかのことが目に入らない猪突猛進タイプ。

勉強に関することを答えた人…モーレツ度70％

けっしてムリはしないけれど、やり出したら止まらない！見ていて涙が出るほどのがんばりや。

おけいこごとや芸術的な趣味を答えた人…モーレツ度50％

がんばるときはがんばるけれど、基本はマイペース。なにをするにしても、ゆったり優雅にといった感じ。

その他のことを答えた人…モーレツ度30％

「がんばるなんてかったるい、モーレツなんてダサイ！」とあくまでリラックス。ただのなまけ者という声も…。

編集後記

かがみもち

今回で多分卒業です。今まで約4年間ありがとうございました!!

連

今回も本のしょうかいをやりました。楽しかったです。

今回もイラストをかせて頂きました。次回もよろしくお願いします。

Kosaki

今回は本の紹介をしました。次回は楽器しょうかいをします。

TA

今回も本の紹介でした。そろそろ何かコーナーを持ちたいですね。何やろう・・・・・・

心理ゲームどうでしたか。あいかわらずパソコンは大変です。

連さんご卒業おめでとうございます。

今回で11号。めっちゃはやく感じました。次もでれたらいいなっ…!!受験も頑張りマス。今月号、めっちゃオススメです。

今回、連さんがご卒業されました。おめでとうございます！

今回は途中から参加。ほとんどタイミング悪く参上してました。受験頑張ります。お腹すきました…

モリイ

今回もみんなに会えず寂しいです(泣)二〇〇九年も毎号出席(!)頑張ります!!連さん、卒業おめでとうございます!!

R